私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

みやぎ民医連

発行所　宮城県民主医療機関連合会
仙台市青葉区木町通1-8-18
〒980-0801　田村ビル５Ｆ
TEL　022－265－２６０１
FAX　022－263－８２６６
e-mail:dai@miyagi-min.com
発行人　坂　田　　匠
1日･15日　月2回発行　1部 50円

ふるさとを放射能から守ろう!
3.21みやぎアクション
日時 2015年3月21日（土） 雨天決行
場所 勾当台公園・市民の広場
時間／12時スタート➡ブース開店➡ライブ➡野外集会➡15時アピール行進出発
主催／女川原発の再稼働を許さない! 2015みやぎアクション
連絡先／TEL022-373-7000

第33次辺野古支援・連帯行動

戦争のない平和な国を願う

長町病院　診療サービス課　橋本　さゆり

1月27日から3日間、第33次辺野古支援・連帯行動に参加してきました。3日間を通して嘉数高台公園、嘉手納基地、高江、辺野古、アブチラガマ、ひめゆり資料館など様々な場所を訪れることが出来ました。中でも印象に残ったのは、嘉数高台公園、アブチラガマ、辺野古です。

嘉数高台公園では、普天間基地を離発着するオスプレイの様子が見えました。超低空飛行で、民家のすぐ上を飛んでいる様子は、とても恐ろしかったです。

アブチラガマは、沖縄戦では住民の避難場所となり、日本軍の作戦軍地や病院として利用されました。中は真っ暗で何も見えなく、当時は死体や糞便の臭いがひどい中で生活をしていたという話を聞き、なんて恐ろしいところで生活をしていたんだろうと思いました。

辺野古では、座り込みをしている現地の方から話を聞くことができました。どうして長年、座り込みができているのかと問うと、遠くから足を運んできてくれる人がたくさんいることが一番嬉しいと話されていました。私たち民医連職員が訪れた時も、とても喜んでくれたので、現地の人たちを励ますことができて本当に良かったです。

沖縄の問題に関心を持つことが大切

3日間様々な場所を訪れることで、沖縄は戦争のできる国に向かう日本の最前線になっていると感じました。これは沖縄だけの問題ではなく、いずれ日本全国各地で起こりうることでもあるのです。戦争のない平和な国を願って、沖縄の問題に関心を持ち、足を運ぶことはとても大切なことであると感じました。

辺野古支援の参加者

辺野古の皆さんに全日本民医連職員参加者がご挨拶

メディアでは報道されない壮絶な闘い

高齢者福祉施設宮城野の里　事務　小野　泰明

1月21日に高砂9条の会主催の「5人の船長が語る辺野古の闘い！」に参加しました。本来であれば5人の船長さんが来て下さる予定でしたが、開催の数日前から夜間に資材の運び込みが行われるなど、辺野古の情勢が激変し、残念ながら1人の船長さんが来られなくなり、4人の方からお話を聞くことになりました。

昨年の6月に私は第32次辺野古支援連帯行動に参加して、辺野古の実態を知っていたつもりでしたが、実際の闘いは本当に想像を絶するものでした。

キャンプシュワブの前で抗議活動を行っている人には、警察の機動隊や警備員が張り付き、お年寄りがわざと転ぶように仕向けてけがをさせたり、転んだら大けがをする「殺人鉄板」と呼ばれるギザギザで錆びた鉄板をゲート前に敷き詰めたり、日本の警察なのに日本人を守らず、米軍を守ることを行っている実態が報告されました。

また、毎日カヌー隊や船で海上からの抗議行動を行っていると、船やカヌーの進行を妨げるために、危険な引き波を起こしたり、わざと海上保安庁がカヌーを転覆させて連行したり、時には羽交い絞めにされたり暴力を振るわれたり、撮っていたカメラを海に捨てられたりと、新聞やテレビでは一切語られない海上保安庁の卑劣な行為が毎日行われていることが報告されました。海の安全を守るはずの海上保安庁が、海を壊す活動に手を貸し、安全を守るどころか、危険にさらす行為に憤りを感じました。

私たちが遠い沖縄に対して出来ることは限られますが、海上保安庁へ電話やファックスでの抗議や、この事実を多くの人に語り広げていくことが本当に大事だと実感した報告会でした。

たたかいのメッセージをもつ船長さんたち

辺野古の海上での攻防

工事車両前に立つ女性

健康手帳

趣味で10年ほど前から自然薯栽培を始めました。▼山に自生しているものを畑に栽培するわけですから、圃場を自然に近い環境に整えることから始まります。畑を耕す際は腐葉土を多めに投入、肥料は完熟の物を使います。化成肥料は持続性のあるものを少しだけ使います。自生しているものは農薬に敏感ですので農薬は一切使用しません。成長した自然薯は１００㎝から１３０㎝となる事から、収穫のしやすさと連作を可能とするため、パイプ栽培をしています。▼また、真夏の炎天下でも山の地面の涼しい環境に近づけるため、表面が白いポリマルチで熱を反射し地中の温度を下げてあげます。▼9月頃に白い小さな花弁が出てきます、これは秋にはむかご（栄養繁殖器官のひとつ）となり炊き込みご飯にするとおいしいです。▼11月蔓が枯れてきます、収穫は蔓が完全に枯れ2週間ほど放置したのちに行ないます。12月初旬いよいよ収穫です。収穫した自然薯はすり鉢ですりおろし、だし汁で延ばすのですが、皮に風味があり栄養価が高い事なら、ひげ根を火であぶり皮ごとすりおろします。これを熱々のごはん（麦飯）にかけてすすり胃袋を満たしてあげます。

綾小路秀磨

地域に根ざした施設をめざして

長町病院
はなみずき施設長
坂本　謙一

写真は、今月の行事ホットケーキパーティです。次回は、焼きそば・たこ焼きをしてほしいとリクエストも（笑）

2014年12月に開所しました「住宅型有料老人ホーム　はなみずき」です。長町病院北棟の3階・4階の部分を改装し、48室（夫婦部屋2室）50床で運営しております。独り暮らしの高齢者や老夫婦のみの世帯の方、独力で外出ができないなど食事の提供や見守り支援を必要とされる方が入居できます。

超高齢社会が進む中で、医療サービスや介護サービスの提供を受けながら、誰もが安心して生活できる住居が求められています。

いつまでも住み慣れた地域でなじみの人たちと暮らしたい・・そんな思いを大切にし、地域に根ざした施設をめざし頑張っています。

厚生協会としては初の老人ホームであり、業務マニュアル・運営基準などを一から作っていく大変さを感じながらも、有料老人ホームとして社会的な使命と役割を果たすことができるようにスタッフ一同、努力をしております。

連載最終回

要支援1・2が打ち切られたらどうなるのか？
安心して住み続けられるまちづくりのために運動しよう

Aさんに今度制度が変わって、いままで受けていたヘルパーやデイサービスが高額になったらどうしますか？とお聞きしました。「今でも暮らしが大変なのに、利用料金が支払えないようなら、デイサービスは我慢する。掃除ははってでも自分でやる。苦労してきた世代なので国はあてにしない。老人ホームには入りたくない。今も食事は、20品目自分で全部つくる。楽しいし、はりあいがある。友の会で友達もたくさんできた。これからもお友達を増やして元気に暮らしたい」と語る反面「夜は一人でさびしいと思うこともある」と話していました。

Aさん

Aさんが、要支援のサービスを受けられなくなったら、大変と言っていた掃除も膝の痛みをこらえてご自分ですべて行わなければなりません。2階から上り下りも増えるでしょう。デイサービスを減らすと、人との触れ合いも減り、おしゃべりをするひと時もなくなります。買い物もスーパーまで歩いていき、重い荷物を持ってアパートに戻り2階に登らなければなりません。介護サービスが受けられなくなると、一人での暮らしが成り立たなくなります。

戦争をくぐり抜け苦労してきた方に、国は社会保障を切り捨てていきます。

国が行うべき社会保障を切り捨て

医療介護総合法によって、入院から在宅へ、医療から介護へ、介護から市場・ボランティアへと大改悪がすすめられます。要支援者の訪問介護、デイサービスを縮小・打ち切り。特養から要介護1・2を原則排除。

社会保障のためと消費税も今年の10月にはさらに10％へ引き上げられようとしています。消費税8％増税分の5兆円、そのうち社会保障の充実に利用されるのは0・5兆円。他の4・5兆円は違う分野に利用されます。4月の介護報酬改定は、▲2・27％の大幅なマイナス改定。介護事業所の経営への影響も懸念されます。

宮城民医連では、安心して住み続けられるまちづくりをめざして、地域にある要求をつかんで自治体との懇談、要請、交渉も行っています。いのちと暮らしをまもる、安全安心の医療介護を実現する大運動推進のため、国会請願署名を続けています。住民と一緒に国が行うべき社会保障の充実を求めて、あきらめずに運動しましょう。（終）

古川民主病院ケアマネージャーの皆さん

3候補地とも問題あり
建設反対を

放射能を含む指定廃棄物、最終処分場を考えるシンポジウム

1月25日（日）仙台弁護士会館で、福島第一原発事故により宮城県にある指定廃棄物の最終処分場問題を考えるシンポジウムが開催されました。候補地として環境省が、選定したところは加美町の田代岳、栗原市の深山獄、大和町の下原地区です。約400名の参加でした。

青木正芳 氏

井原　聰 氏

大槻憲四郎 氏

第一部は3つの講演。

東北大学理学研究科名誉教授・地質学の大槻憲四郎氏は「3候補地の地質、地滑りの問題点」ということで、「なぜこの3か所が選ばれたか？国有地だからです。3か所とも地形図で見ると地滑りがいつ発生してもおかしくない土壌」と話されました。

東北大学名誉教授、日本科学者会議常任幹事の井原聰氏は「なぜ最終処分場建設なのか」と「放射性物質汚染対処特別措置法」（特措法）の問題点を解説。「100年先まで安全と断言できるほど、現代の科学や技術は安全とは言えず、コンクリートの耐性も未知数。臭いものにふたではなく、たえず新しい対応ができるような管理が不可欠」と話されました。

仙台中央法律事務所の弁護士、青木正芳氏は「生存権、幸福追求権を侵害する建設計画」として、「放射能はにおいも形もないが、私たちの体が破壊されていくもの。東電の安全神話を打ち破って事故が起こり、放射能がもれだし拡散した。未来の子どもたち、次の世代を守らなければならない」と語りました。

幅広い運動を

第2部は、どのように闘っていったらいいのかコーディネーターをまじえて、フロア発言がありました。「最終処理場の有識者会議というが、どこのどんな人なのかわからない。本当に良識のある人が選ばれているのか」「発生原因の東電が責任をもって管理するべき」「過去に原発事故のあったスリーマイルも取材したが、日本のようにこんなに被災者が細かく分断させられている国はない」などの声がありました。

最後に、東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター代表の綱島不二雄氏が「東電の落し物は東電に返す。放射能汚染をこれ以上拡散させないように特措法の見直し。8000ベクレル以下の廃棄物を一般ごみと共に処理する方法の検討。より結束をかためて幅広い運動をして行こう」と発言しました。

（記事：田中千枝）

会場いっぱいの参加者

7つのマチガイ

［問題］上の絵と下の絵では7つのマチガイがあります！どこでしょう？（作・野上和彦）

クイズの解答は事業所名、氏名、職種を記し県連事務局に送って下さい。メールは不可。ファックスは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。**余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。**

「声」の欄に掲載させていただく場合があります。応募資格＝臨時・パート含む県連職員。締切3月31日当日消印有効。発表4月15日号。1月15日号答え「しゃぶしゃぶ」・応募総数23件。当選者＝**菅原真代**／宮城野の里。**中里朋子**／長町病院。**遠藤澄子**／坂総合病院。**足利知弘**／つばさ薬局こごた店。**加藤由有子**／坂総合病院。（敬称省略）